

NJ素流協 News

令和元年6月10日

第173号

令和元年6月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>



鈴木理事長挨拶

ノースジャパン素材流通協同組合 第16回通常総会開催

NJ素流協は5月27日、第16回通常総会を盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて開催し、来賓、組合員等約130名が出席した。

1 開会・理事長挨拶

横澤孝一副理事長の開会の辞に続いて、鈴木信哉理事長が次のように挨拶した。

「平成30年度は共同販売取扱数量48

万㎡の目標を達成し、全体で49万㎡となり、50万㎡までもう少しとなった。

また組合員の皆様のご要望にお応えして林業講演会、先進地視察、林業講座等行事を行ったところ、多数ご参加いただき大変嬉しく思っている。トピックとしては、組合員の若い後継者のための「婚活パーティー」という珍しい企画を行った。また災害発生時に流木

などの処理に当たる協定を結び、直ちに協力できる体制作りも行った。

今年度も一番の目標は、何と云っても組合員の皆様の悩み、期待にお応えすることだと思っている。東京都知事が「〇〇ファースト」という言葉を使っていたが、私達は「組合員ファースト」を実現していかなければならないと考えている。

最近の情勢を見ると、新たに3つの合板工場が国内に建設された。現在の合板は国産材が主流だと思われる

かもしれないが、合板の国内生産量は50%を超えたが、国産材を使用した合板は未だ50%に届かない。集成材はさらに外材比率が高い。小径木の母屋角などは、ロシア材製材時代から代替材をどうするかという問題に決着がついていない。つまり、国産材が外材に取って代わる余地がまだまだ非常に大きいということだ。そのためには、国産材

の弱点である供給の安定性が担保されなければ、工場側も設備投資ができない。当組合の組合員一人ひとりでは何ともならなくても、皆でまとまることで、供給側も需要側もウィン・ウィンになる。

「林業成長産業化」と言葉ではいうが、一番大事なことは、正しい情報を中立的な立場で正しく伝え、ウィン・ウインの関係を作ることだと思う。本日は皆さんに慎重なご審議をいただき、より良い総会となるよう祈念します」

2 表彰の披露、感謝状贈呈

平成30年度に全国および岩手県で表彰を受けた組合員について、功績の披露と記念品の贈呈が行われた。また当組合の取組みにおいて多大な協力と貢

献をした工場と組合員に対して、感謝状と記念品が贈呈された。

▽平成30年度緑化功労者 国土緑化推進機構会長賞

横澤林業(株)代表取締役 横澤孝一氏

▽いわて農林水産振興協議会会長表彰 意欲ある担い手賞 (林業部門)

高橋木材代表 高橋清志氏、和子氏



横澤和子夫人に感謝状を贈呈

なお、それぞれの受賞には、横澤氏令室和子さん、高橋氏令室和子さんの功績が大きいとして、当組合理事長より両夫人に対して感謝状が贈られた。

▽岩手県におけるカラマツ強度調査協力者

(有)川井林業代表取締役社長 澤田令氏

▽外部視察受入協力者

(有)松田林業代表取締役 松田成輝氏、(株)中川原商店代表取締役 中川原繁氏、(株)柴田産業代表取締役 柴田慶二氏、(株)フォレスト創森代表取締役 菊池宗徳氏、(有)二和木材代表取締役 小笠原清貴氏、(有)砂子澤林業取締役 砂子澤節郎氏

▽出荷量・出荷量増加率上位者

(株)小笠原林業代表取締役 小笠原重男氏 (出荷量)、(有)谷地林業代表取締役 社長 谷地讓氏 (増加率)

3 来賓祝辞
来賓を代表して、東北森林管理局長 小島孝文氏、岩手県農林水産部長 上田幹也氏 (代理・林務担当技監 橋本卓博氏)、岩手県森林・林業会議理事長 中崎和久氏 (代理・専務理事 千田育郎氏)、日本合板工業組合連合会会長 井上篤博氏 (代理・専務理事 兼事務局長 川喜多進氏) から御祝辞を頂いた。

4 議事

議事に先立ち事務局から総会の成立 (組合員総数170名中本人出席47名、委任状出席28名、書面議決書提出86名) が報告された。谷地讓氏が議長に選出

され、議案の審議・承認が行われた。主な内容は次のとおり。

▽議案第1号「平成30年度事業報告書及び決算関係書類承認の件」

・平成30年度の共同販売事業における素材取扱数量は、合板工場や集成材工場向けが36万707.㎡、バイオマス材が12万664トンとなった。国有林素材の委託販売では約9495.㎡を取扱った。バイオマス材1トン11.㎡とすると、取扱量総数量は49万865.㎡となった。

・森林の再生に寄与する事業として、岩手県森林再生基金事業の推進と、低コスト再造林促進のための再造林促進奨励事業 (組合員に対する助成金交付) を行った。宮城県名取市において『ノースジャパン100年復興の森』と称して海岸防災林の再生活動を行った。

・技術指導と調査研究、情報提供に関する事業として、①研修会等 (林業経営講座、現地視察研修、林業講演会等)、②技術指導 (合法木材・バイオマス材

等の適正供給と供給事業者の認定、N J素流協「皆伐施業ガイドライン」の取組指導、いわて林業アカデミー研修

生の受入指導等)、③調査研究 (下刈作業低減技術開発、原木トラック運送の効率化と素材生産者とのネットワーク構築、岩手県におけるカラマツ強度調査等)、④情報提供等 (N J素流協ニュース発行、地区別組合員会議の開催等) を実施した。

・国、県、林業関係団体等からの助成や受託、共同による事業として、①需給情報共有化対策事業 (東北地区需給情報連絡協議会等) ②下刈作業低減技術開発 (二刈り省力化による一貫作

業システム体系の開発) ③森林総合研究所との共同試験) ④災害時における応急対策業務に関する協定等を実施した。

▽議案第2号「令和元年度事業計画書及び収支予算決定の件」

・共同販売計画量は表1のとおり。
・東北森林管理局等委託販売業務にお

表1 令和元年度共同販売計画量

区分	計画量
合板用素材	225,000㎡
製材・集成材用素材・その他	165,000㎡
計	390,000㎡
バイオマス発電用素材	130,000 t

いて素材1万6千m³を取り扱う。
 ・森林再生に関する事業として、岩手県森林再生基金事業の推進、低コスト再造林の促進、海岸防災林再生活動に取り組み。

・技術指導と調査研究、情報提供に関する事業として、研修会、林業講演会等の実施、合法木材・バイオマス材供給事業者認定、「皆伐施業ガイドライン」取組指導、「意欲と能力のある林業経営体」の活動指導等の実施、下刈軽労化作業の実証、青年部会の設立と後継者による業務改革等、原木トラック運送の効率化とネットワーク構築の取組み、N J素流協ニュース、地区別組合員会議等による情報発信・交換等を行う。

・受託事業として、当組合の事業計画や組合員の事業展開に貢献する事項について、国や県、林業関係団体等からの助成や受託、共同による事業に取り組む。

▽議案第3号「令和元年度手数料決定の件」

共同販売の手数料については、販売代金の3.5%以内(消費税別)とし、

令和元年6月分より3.25%とする。
5 懇親会

通常総会の閉会后、来賓、組合員を交えて懇親会が催された。その中で、このほど発足することになった「ノースジャパン素流通協同組合青年部会」について紹介が行われた。設立発起人メンバーがステージに上がると会場から大きな拍手が起こった。発起人を代表して横澤林業(株)専務取締役横澤孝

『N J素流協青年部会』会員を募集します！

組合員の青年経営者及び経営に携わる後継者の資質向上と相互の連絡調整、発展に寄与するために、このほど『N J素流協青年部会』を設立することとなりました。皆さまのご入会をお待ちしております！

会員対象者

N J素流協組合員の若手経営者および経営に携わる後継者
 正会員20歳以上満45歳以下、賛助会員46歳以上満50歳以下
 入会金 一律 5,000円、
 年会費 正会員 5,000円、 賛助会員 10,000円

※詳細は事務局(N J素流協 吉田)までお問い合わせください

志氏が挨拶し、設立の趣意を述べて青年経営者と後継者に対し入会を呼びかけた。



N J素流協青年部会の発足を紹介

トピックス

東北地区原木トラック運送協議会 第3回定時総会を開催

東北地区原木トラック運送協議会(松田光治会長)は5月27日、盛岡市において、第3回定時総会を開催した。平成30年度事業報告

では、原木トラック運送の近代化・合理化対策として東北森林管理局等への要望活動等に取り組み、緑ナンバートラックへの林野庁の補助対象化が実現したことが報告された。令和元年度事業計画案では、引き続き原木運送事業の改善のための諸活動に取り組むことが決定された。今回は役員の変更期に当たっており、会長は(有)三栄興業松田光治氏、副会長は(有)丸富運輸遠澤卓輝氏と(株)八幡平貨物 齋藤正敏氏と決定された。

令和元年度第1回県産木材供給連絡会議

5月29日に開催された同会議では、林業技術センターから、生産量が増加傾向にある直径40cm超スギ大径材の生産技術開発の取組が紹介された。岩手県森連木材流通センターからはスギ合板材等の価格動向について、県林業振興課からは新規県産木材利用促進事業や木質バイオマスコーディネーター派遣事業等の説明があった。

東北地域の再造林支援の動向

森林伐採跡地への再造林を進めるため、東北各県で業界団体による再造林資金助成が始まっている。東北各県で最も早くから再造林助成を行っているのは宮城県(みやぎ森林づくり支援センター)で、ほぼ10年の歴史がある。秋田県では、4月に県森連と素生協が再造林支援として六百万円を県に寄付している。岩手県は県森連や当組合を含む8団体による「岩手県森林再生機構」が、また山形県は「山形県再造林推進機構」が平成30年度申請分に対して今年度助成金を支給することにしており、青森県でも「青い森づくり推進機構」が今年度から助成を開始している。

助成金の申請に必要な書類や様式は各県ごとに異なるため、担当窓口にお問い合わせください。

平成30年版「森林・林業白書」に当組合関連の記事掲載

平成30年度「森林及び林業の動向」(森林・林業白書)に、当組合が事務局を

務めている「東北地区原木トラック運送協議会」の設立がコラムで紹介されました。当協議会は平成29年に設立され、原木運送事業者が連携した活動を行う国内初の組織です。白書で取り上げられたことで、その取組みが全国的な注目を浴びることになります。

また、農林水産祭の産物(木炭)で仙台谷地林業の谷地司氏が内閣総理大臣賞を受賞されたほか、各地の林業事業体が行っているイノベーションの事例として、当組合員で素材生産の効率化を図るために次世代型ハーベスタ(ハイランダー)を導入している(株)柴田産業(岩手県一戸町)と(有)丸大東北農林(同洋野町)が紹介されています。素材生産のイノベーションを実現するトップランナーとして大きな期待が寄せられています。

全素協第45回通常総会に出席

全国素材生産業協同組合連合会総会が5月23日、東京都において開催され、当組合から鈴木理事長と高橋常務理事が出席した。

お知らせ

○カラマツ強度調査成果報告会

当組合と岩手県林業技術センターが共同で実施したカラマツ材強度試験の結果を報告します。

日時：6月27日(木)

13時30分～15時30分

場所：岩手県林業技術センター

講師：上席専門研究員

谷内博規氏

○林業経営講座(第1回)の開催

組合員の経営者及び総務担当者等を対象に研修会を開催します。

日時：6月28日(金)

10時30分～16時30分

場所：岩手県林業技術センター

内容：①働き方改革への対応、

②「法人化」及び事業承継税制、

③法人化手続きの準備、④消費税の軽減税率制度

○組合員会議を開催します

青森、岩手、宮城5か所で開催します。詳細は通知文書、当組合ホームページでご確認ください。

◆◆ 国有林素材山元委託販売 ◆◆

<5月度販売終了分>

管理署	数量(m ³)	販売区分	入札日
岩手南部森林管理署 遠野支署	3,074	一般・合板・低質	令和元年5月29日 (終了)
岩手北部森林管理署	2,740	低質	令和元年5月30日 (終了)

※詳細については、営業企画部までお問合せください。

<次回入札予定>

管理署	数量(m ³)	販売区分	入札日
盛岡森林管理署	651	一般・合板・低質	令和元年6月13日

場所	日時	会場
青森県 七戸町	6月18日(火) 13:00～	七戸中央公民館
八幡平市	6月19日(水) 13:00～	八幡平市立荒屋コミュニティセンター
宮城県 大崎市	6月21日(金) 13:30～	鳴子公民館
住田町	6月25日(火) 13:00～	住田町農林会館
久慈市	6月26日(水) 13:00～	久慈市文化会館アンバーホール

林業における「働き方改革」について

1. 働き方改革とは

このところ様々な場面で話題になっている「働き方改革」ですが、そもそも何を改革するための取組みでしょうか。厚生労働省のホームページでは、「投資やイノベーションによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分

に発揮できる環境を作ることが重要な課題になっていきます」として、『働き方改革』は、この課題の解決のため、働く方の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く方一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指して

林業経営者のみなさん
まずはセルフチェックをしてみましょう！



<セルフチェックリスト>

主な課題	チェック項目	チェック結果	
		YES	NO
働く環境の基礎整備	経営理念を持ち、従業員と共有していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	経営目標や売上高などの経営情報を従業員に開示していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	就業規則を作成し、従業員に周知していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	従業員にとって重要な労働条件を通知していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	雇用契約を適切に結んでいますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	従業員の労働時間の管理を適切に行っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	長時間労働は発生していませんか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	年次有給休暇などを適切に付与していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
労働安全の確保	安全衛生管理活動を適切に行っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	健康診断などを適切に実施していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	危険防止措置を講じていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	求人票などに労働条件のほか、自社のアピールポイントを記載していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
労働力の確保	女性の活躍を促していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	能力に応じた賃金制度の構築	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
雇用の改善	期初に年間の労働日数をカウントした上で、1年間の業務の進め方を計画していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

いかがでしたか？

「NO」がある方、自信をもって「YES」といえない方ももっと経営を改善したい！と意欲のある方も
いまずく「働き方改革」に取り組みましょう！

います」と説明されています。

2. 林業の「働き方改革」

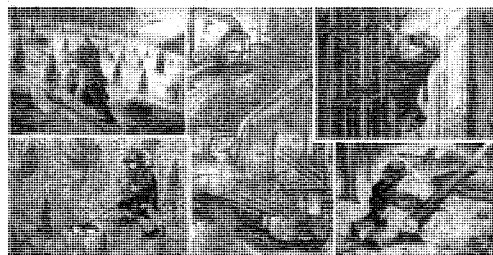
「働き方改革」は林業や木材産業でも当然のこととして求められています。林野庁は、本年3月に林業と木材産業について経営者向けの「働き方改革」の手引きをそれぞれ作成しました。ここでは林業経営者向けの内容をご紹介します。

林業経営者向け手引きでは、具体的な課題を挙げ、当組合員を含む全国の事業者の事例を示しながら改革の糸口を解説しています。改革を行うと、①会社のイメージがアップして応募者が増加、②週休二日制導入により生産性向上、③安全意識の改善と作業の効率化、が期待できるとしています。

中に経営者のためのセルフチェックリストが示されています(上図)。林野庁「林業における『働き方改革』の実現に向けてー林業経営者向けの手引きー」より転載)。どの項目も一般の企業ではすでに行われている基本的な事項といえます

が、こうしたチェック項目が示されること自体、林業の経営環境が未だ十分には整っていないということの証左でしょう。林業が成長産業として期待される今、持続的な経営を実現するためにも課題を一步一步改善していく努力が求められています。

林業における「働き方改革」の実現に向けて
ー 林業経営者向けの手引き ー



2019年3月

林野庁

林業及び木材産業における「働き方改革」に関する検討会

(図はいずれも林野庁ホームページより転載)

「手引き」は林野庁のホームページからダウンロードできます。
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/routai/hatarakikata/ringyou.html>
または「林野庁、働き方」をキーワードにして検索できます。是非ご覧ください。

ちよつと気になる木の話

35

京都迎賓館物語

—完成までの水面下の話題のみ—

京都迎賓館といえば、ヨーロッパ近代建築を思い出させる赤坂御苑と違って、和風迎賓館といわれる。公式な物語は別として、水面下の話題のみ記述することにする。

昭和61年だったと記憶するが、全国銘木団体連合会（以下全銘）の役員で、秋田県能代の重鎮と会う機会があった時に「人生を振り返ってみると、昭和はこれと誰もが認める木造の名建築がないのは極めて残念。何か残したいなあ。」という話を聞いた。そうだと思い、計画を立て、予算を要求することにして「昭和の大伽藍建築計画」と題名をつけた。途中までクリアしたが、その後要求は認められず、上司に「がらんがらんと崩れた」となぐさめ(?)られた。それでもあきらめきれず、たまたま知り合いだった、京都府庁の林務出身で府民相談室に向向していた退職

前の重鎮に話をした。その時、彼は「平安神宮は、京都へ遷都して千百年を記念して建築された。今度は、遷都千二百年を迎えるにあたり、それに合わせて迎賓館を京都に作る案を考えてみよう。」と言ひ、検討をお願いした。

その後私は東京を離れ、しばらく経って戻ったところ、本当に京都迎賓館構想が実現に向けて動き始めていた。今度は材料供給の面で関係を持つことになったが、もうすでに、〇〇県木連による〇〇県のヒノキを使つて欲しい等、材料納入の陳情が始まっていた。それでは一大事業にならないと思ひ、当時の全銘会長に「日本の一大事業なので、全銘に一括して任せてほしいという線に進めたら」とお勧めしたが、たった一言「これは、自分の仕事だ」と言われ、またも自分の構想は涙をのんだ。

この時、せっかくだから本物の木造の迎賓館にしようと、窓口の担当者申し入れをしたら、聞いた話な

ので本当かどうかは知らないが「東山からロケット弾を撃たれたら大変だ。木造にはできない。しかしながら、精一杯和風にして、木材を使う。」と相手の窓口担当者に言われたとのこと。建築基準法の問題もあるが、それは警備の問題だと心の中で思つたものである。

時は流れ、建築も始まり、もう関わることもないと思つていたが、完成間近に1本の電話が入る。建築を請け負つていたゼネコンから、「迎賓館用の天井板と巨大なセンの木が足りない。何とかしてほしい。」とのこと。全国の間屋をはじめ、木材業界のどこにもないので国有林内で新たに探してほしいとの意味である。銘木クラスであるが、保護林では伐採できないので、それ以外の場所を探さなければならぬ。そして、天井板用は天然秋田杉2本を秋田県内で、センの木1本を帯広管内で見つけ、伐採、加工し、何とか完成にこぎつけた。

この天然秋田杉こそが、昨年N J素流協で視察した、秋田県上小阿仁

村大内沢の天然秋田杉林分から伐採されたものである。

同じ時、当時の某K販売課長が、「とあるところから天杉をどうしても欲しいと言われたので、もう1本伐採したい」と連絡してきた。要望先はなんと、上野の国立博物館である。こちらは1本の立木を輪切りにしたもの天井まで展示している。機会を見つけてぜひご覧いただきたい。

最後に、帯広のセンの木であるが、秋も遅くに道なき道を探しに行ったため、見つけたときは夕暮れになっていた。山の中から電話が入り、本当に大声で「見つけました！」と連絡してきた。雪が降りそうだけどもテントを持って来ているので大丈夫だと言う。だが、兎にも角にも安全に山を下りてもらおうようお願いした。とはいうものの、私の声も弾んでいった。

水面下の話ばかりなので、公式文書どころかインターネットでも検索することはできないと思う。

平成31年5月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	8,039	87.8	83.1	13,015	78.4	99.5	21,054	81.7	92.5
カラマツ	5,142	144.8	208.8	275	162.6	105.0	5,417	145.6	198.8
アカマツ	4,163	173.8	151.4	1,717	122.5	*	5,880	154.9	213.8
その他	0	0.0	*	459	114.3	424.1	459	108.7	424.1
合計	17,344	114.7	116.5	15,466	83.3	114.9	32,810	97.4	115.7

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	3,847	111.7	65.2
カラマツ	3,124	140.7	244.5
アカマツ	3,723	163.8	184.2
その他	0	0.0	0.0
合計	10,693	134.2	115.4

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m³)	製材・集成材・その他用 (m³)	計 (m³)	燃料用 (t)
スギ	17,199	29,610	46,809	7,289
カラマツ	8,693	444	9,137	5,343
アカマツ	6,558	3,118	9,676	5,996
その他	21	858	879	35
合計	32,471	34,030	66,501	18,663
目標達成率 (%)	14.4	20.6	17.1	14.4
計画量	225,000	165,000	390,000	130,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成31年5月の需給動向】

- 合板用のスギは国有林の越材も多く出材され供給過剰の状況、一部の工場で受入制限始まる。
- 集成材用のアカマツも順調に納入され、工場での使用量が増加。今後はアカマツ伐採制限もあり減少する。
- 燃料用は6月からアカマツ被害地域の伐採制限が始まることから5月にアカマツが増量し出材された。

耳からウロコ

所変われば宝物

ある場所では見向きもされず、踏んづけられたり捨てられるが、別の場所では宝物という品物は沢山ある。

日本の正月と言えば数の子である。数の子はニシンの卵であるが、日本でニシンが極端に獲れなくなり、高値となった。しかし、かつてカナダではニシンの卵は捨てられており、日本に持ってきたら宝物に化したのである。物流経費をかけても全然である。こうした例は、国内流通品でも、ハタハタやジュンサイ等沢山見られる。

今、山菜シーズンも終わろうとしているが、宝物になる可能性があるものにイタドリがある。東北では、戦後食糧難の時代を除いてはほとんど食べられない。やはり、フキが主流である。イタドリは林道脇に密生し背が高く、秋になると枯れて硬くなる。林道の内側に覆いかぶさるため、車を走らせると傷がつく。林道の草刈りの対象である。ところがこれが意外な場所では宝物である。高知県に行くと、道の駅等ではイタドリが一次加工

されて「えつ」という価格で売られている。高知の人に聞くと、県内では足りず、他県に足を延ばして採りに行くという。まあ、東北の根曲竹のタケノコと同じだね。和歌山県でもよく食べるという。私も食べたことがあるが、結構美味しい。それなら、数の子と同様に、東北から持っていけば宝物に化けるかもしれない。林道の維持修繕にも役立つし…。逆に宮崎から東北にワラビが来る。雪解け近くになると、東北人は地元で出る前に宮崎のワラビを買って食べるのだ。時間差攻撃である。この攻撃も逆に、東北からシーズンが終わった地域へ、ワラビを移動させればいいのかも知れない。

西日本へ行くと、トチノミせんべい等にトチノミを重宝するが、東北では採らないし、食べない。東北弁で言えば「そんくたらもの」である。このような食文化の違いを情報発信し、流通に乗せれば山は宝物で一杯になる。しかし、魚問屋、木材問屋と違って、山菜を全国的に扱う山菜問屋は存在しない。あまりにもニッチで、季節もニッチだからである。でも、山菜が東北の山村の宝であることは間違いない。